

1. 熊本大学の理念・目的等

1.3 附属小中学校の理念

1.3.1 附属小中学校の理念

■教育学部の理念

広い教養と広い視野を持つ豊かな人間性を基盤とした教員の養成(学校種別教員養成課程)と地域社会における生涯学習等の指導者の養成(生涯スポーツ福祉課程及び地域共生社会課程)を目的としている。そのため、教師や地域社会の指導者として必要な社会的及び専門的知識を習得させ、生涯にわたって自主的な知的探求心を培う人材を養成することを教育の理念とする。

■教育実習の方針と目標

実習の方針

学校教育の全般にわたって、理論と実践の両面から、研究的な姿勢のもとに習得し、教師としての自覚や使命観など、教師として必要な基盤を育成する。

実習の目標

1. 教師としての基礎的技術を学び、自分なりの課題を持つことができる。
2. 教師としての責任と自覚を持って、いろいろな活動に積極的に取り組むことができる。
3. 教師についての認識を深め、教職への意欲を高めることができる。

■附属中学校の教育方針

本校教育方針の核は生徒の夢を育むことである。その「夢育」のためには、まず教育者自身の感動体験をもとに生徒の前に立ち、感性豊かな教育を展開しなければならない。何故なら、生徒たちは感動し“こんなことをやってみたい、あんな人になってみたい”というような夢を抱くからである。その夢を「目標」に変え、厳しい知性と豊かな心で響きあい高めあいながら、真実を求めて、努力し、自ら考える意欲的な人間に育つのを強く願っている。さらに、“美しいものを美しいと感じる心の醸成とたくましい精神”の育成は、中等教育における人間形成の基礎として極めて重要なことと考えている。

生徒が学校で成長する過程に思いをめぐらす時、「我々の目の前にいる生徒たちを、何とかして更に高めたい」という熱い思いがなくして教育は成り立たない。それゆえ教師にいちばん重要な資質は「生徒に対する限りない愛情であり、夢を与えたいという情熱」である。そして、生徒の意欲を高める議論をする前に、日々、教師自身の学ぶ意欲を高めていることが前提でなければならない。学ぶ事の楽しさ、考える喜びを自ら体験して、それを背景に生徒に語り込む実践を積み重ねていかねばならない。

真実探求の精神は自由でなければならないが、規律の厳しさのないところに、真の自由も、創造的精神も育たない。「教えて厳ならざるは、師たるものの罪なり」ということを教育の基底に見据えておかなばならぬことを念ずるものである。

■附属中学校の教育目標

夢は叶う そう信じて 感動し 自ら考え
響きあい 高めあう生徒の育成

- 1.夢をいだいて真理を愛し、自ら考え、響きあいながら、創意工夫し、問題に対処していく心を育てる。
- 2.自他の尊重の精神を高め、正しい判断力・力強い実践力を養う。
- 3.心身を鍛錬し、最後までやりぬく精神力・体力を培う。
- 4.豊かな情操を培い、美しいものに感動する心を育てる。
- 5.国際理解を深めるとともに、我が国の文化と伝統を尊重し、社会の一員としての自覚を高める。

綱 領

真実を求めて

響きあえ たくましいからだで
響きあえ 厳しい知性で
響きあえ 豊かな心で

■附属小学校の教育目標

人間形成の基礎となる「豊かな心、確かな学力」を身につけ、社会の変化に主体的に対応できる個性的で創造性、自発性に富んだ児童の育成をめざす。

自他を尊重し、家族、郷土そして日本を愛する心をもった国際性豊かな人間の育成をめざす。

- 1.自主・自立の教育
- 2.個性重視の教育
- 3.自他の尊重の教育

校 訓

1.考える子 2.強い子 3.明るい子

